

2022年3月期第3四半期 決算補足資料

2022年2月9日



(東証二部 9857)

連結決算概要	．．．	P. 3
品目別売上高	．．．	P. 4
業界別売上高	．．．	P. 5
バランスシート（連結）	．．．	P. 6
連結業績推移	．．．	P. 7

(単位:百万円)	2021年3月期 第3四半期	2022年3月期 第3四半期	増減額		前年 同四半期比		2022年3月期 業績見通し
売上高	25,187	25,243	+	55	+	0.2%	39,000
営業利益	787	754	△	33	△	4.3%	1,750
経常利益	816	794	△	21	△	2.7%	1,800
親会社株主に帰属する 四半期純利益	510	504	△	5	△	1.2%	1,170
決算の概況							

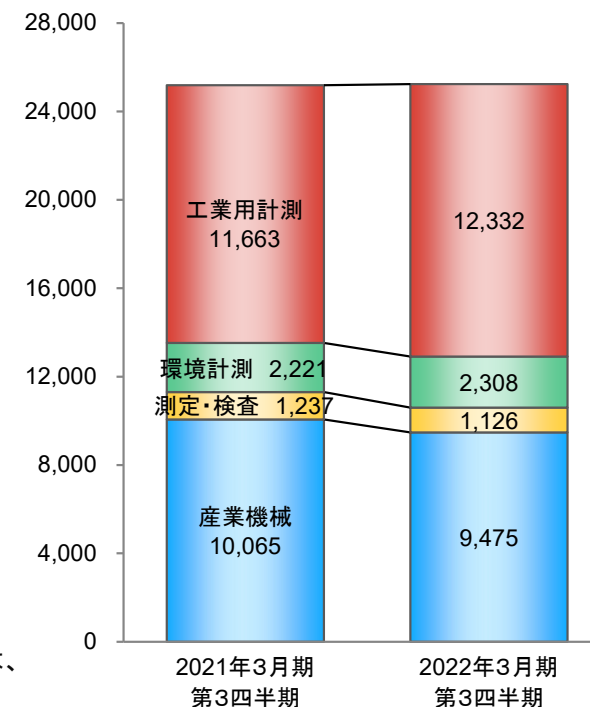
各国で経済活動が再開される中、半導体を始めとする部材の供給不足や原材料価格高騰の影響を受け、大規模な設備投資を手控える企業が見られたものの、設備稼働率の上昇に伴い、建設機械業界、電気機器・精密機器業界、船用関連業界向けの販売が堅調に推移しました。

(注) 本資料中の金額は、百万円未満の端数を切り捨てて表示しております。

(注) 「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しております。これにより、第3四半期連結累計期間の売上高は46百万円減少し、売上総利益、営業利益は11百万円、経常利益及び税金等調整前四半期純利益は12百万円それぞれ増加しております。

(単位:百万円)	2021年3月期 第3四半期	2022年3月期 第3四半期	前年 同四半期比	構成比
工業用計測制御機器	11,663	12,332	+ 5.7%	48.9%
環境計測・分析機器	2,221	2,308	+ 3.9%	9.1%
測定・検査機器	1,237	1,126	△ 9.0%	4.5%
産業機械	10,065	9,475	△ 5.9%	37.5%
合計	25,187	25,243	+ 0.2%	100.0%

(単位:百万円)



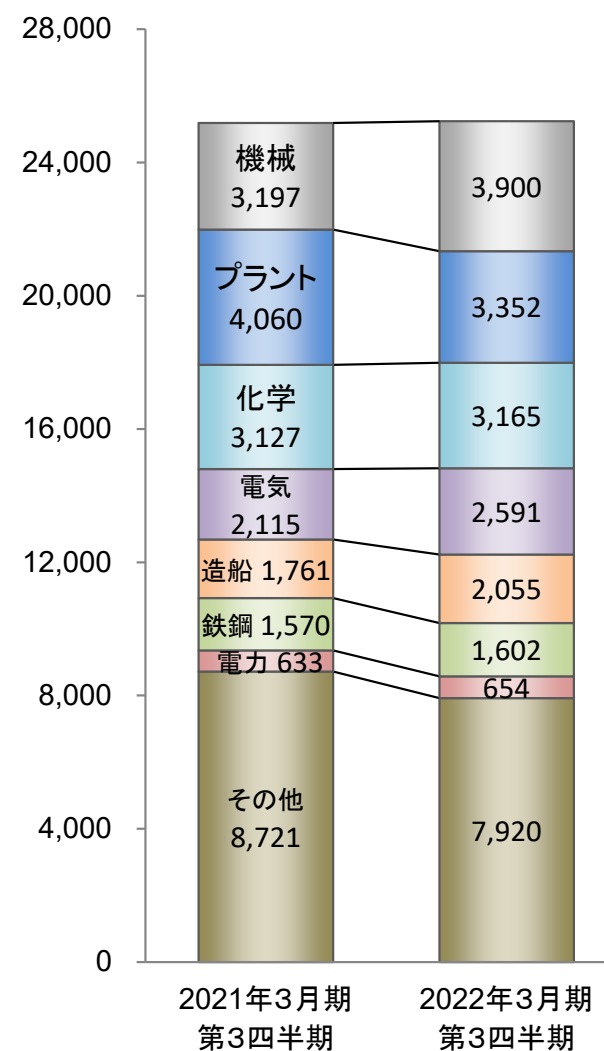
(注)「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、2022年3月期第3四半期に係る各数値については、当該会計基準等を適用した後の数値となっております。

増減要因

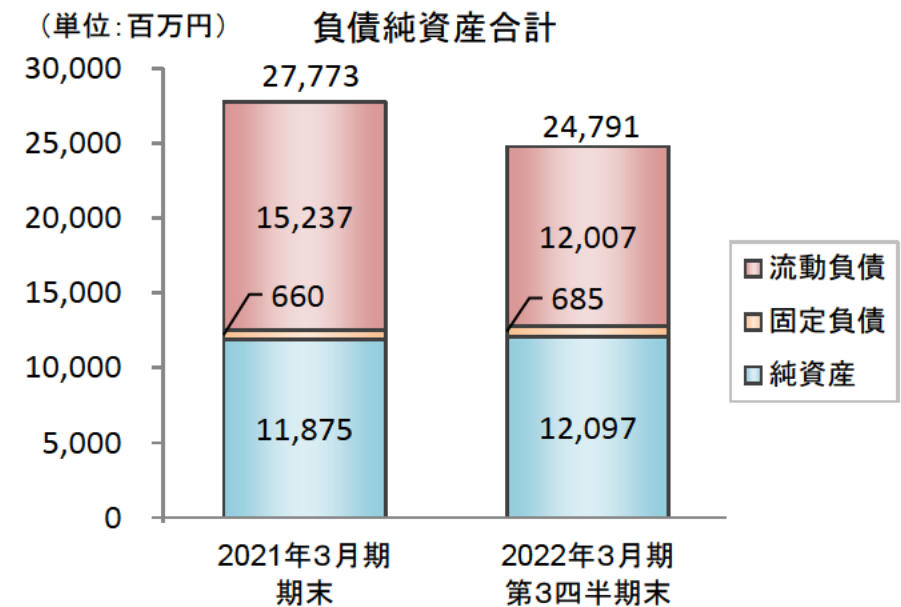
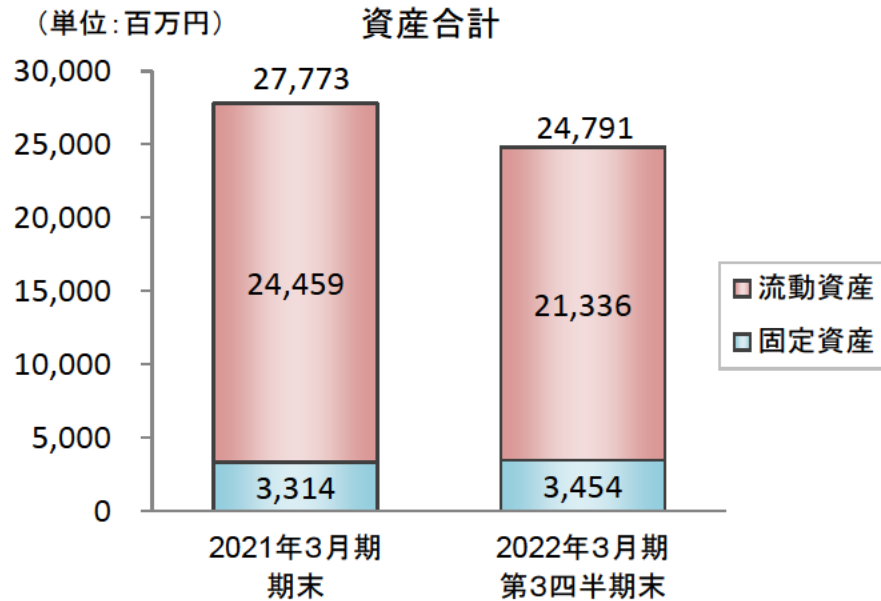
- ◆ **工業用計測制御機器** … 設備の安定稼働を維持するために必要不可欠な各種計測制御機器の更新提案、生産効率向上を目的に製造現場のデジタル化につながる各種ソリューションの提案、増加する自然災害に備えた対策機器の提案等に取り組めました。その結果、プラント・エンジニアリング業界、石油化学業界向けの販売が減少したものの、医療用途や半導体関連用途向け需要が引続き好調な電気機器・精密機器業界や建設機械業界向けに、各種センサーや情報通信機器の販売が堅調に推移し、全体としても増加となりました。
- ◆ **環境計測・分析機器** … 持続可能な社会の実現に向け、水質、大気、振動、騒音等の環境計測機器・分析機器を通じて環境負荷低減につながる提案、各種分析計や環境測定データをリアルタイムに一元管理する遠隔監視システムの提案に取り組めました。その結果、石油化学業界、船用関連業界、電力業界向けを中心に各種水質計やガス検知器等の大気分析計の販売が増加し、全体としても増加となりました。
- ◆ **測定・検査機器** … 脱炭素社会実現に向けた次世代技術の研究開発、製造現場の保守・保全業務の効率化やデジタル化を推進するタブレット端末を使用した保守点検ソリューションの提案、製品の品質や精度の向上につながる各種測定検査機器の提案等に取り組めました。その結果、石油化学業界、鉄鋼業界向けにデジタル端末や大型検査機器の販売があり増加したものの、自動車関連業界向けの販売が大幅に減少し、全体としても減少しました。
- ◆ **産業機械** … 省エネルギー化やCO2削減を目的とした各種機器の導入、循環型社会の形成につながるリサイクルプラント、老朽化した社会インフラ設備の維持管理や機器の更新、製造現場の安心・安全を目的とした機器の提案に取り組めました。その結果、石油化学業界、建設機械業界、船用関連業界向けでバルブや油圧機器の販売が引続き堅調に推移したものの、プラント・エンジニアリング業界向けで大口の産業機械が減少した他、前年同期に販売が好調であった社会インフラ市場向け特殊車両の販売が減少し、全体としても減少しました。

(単位:百万円)	2021年3月期 第3四半期	2022年3月期 第3四半期	前年 同四半期比	構成比
機械	3,197	3,900	+ 22.0%	15.5%
プラント	4,060	3,352	△ 17.4%	13.3%
化学	3,127	3,165	+ 1.2%	12.5%
電気	2,115	2,591	+ 22.5%	10.3%
造船	1,761	2,055	+ 16.7%	8.1%
鉄鋼・ 非鉄金属	1,570	1,602	+ 2.1%	6.3%
電力	633	654	+ 3.2%	2.6%
その他	8,721	7,920	△ 9.2%	31.4%
合計	25,187	25,243	+ 0.2%	100.0%

(単位:百万円)



(注) 「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、2022年3月期第3四半期に係る各数値については、当該会計基準等を適用した後の数値となっております。



2022年3月期第3四半期 ハイライト(カッコ内は前期比)

自己資本比率: 48.8% (2021/03時点 42.8%)

資産

【増減の主な要因】

(単位:百万円)

◆受取手形、売掛金及び契約資産:	売上債権の回収が進んだことにより減少しました
11,867(△3,114)	
◆棚卸資産:	受注残の増加により増加しました
1,492(+855)	

負債・純資産

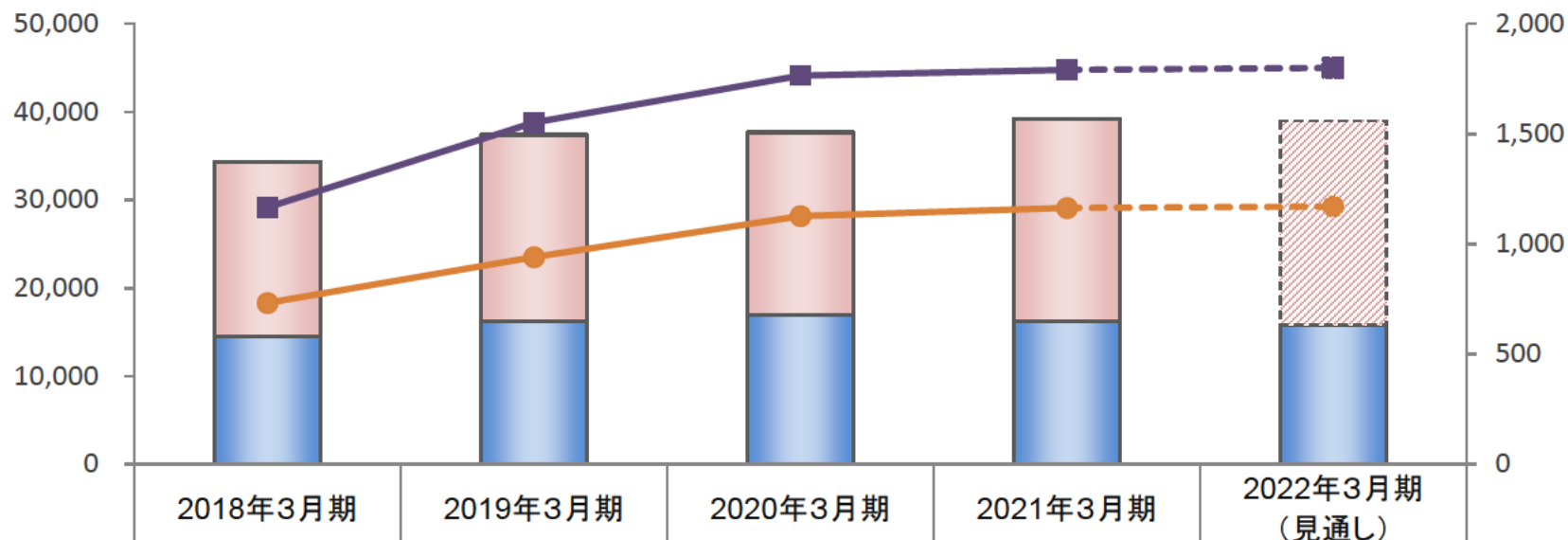
【増減の主な要因】

(単位:百万円)

◆支払手形及び買掛金:	仕入債務の支払いが進んだことにより減少しました
5,307(△2,186)	
◆電子記録債務:	}
5,243(△391)	
◆未払法人税等:	納税に伴い減少しました
16(△369)	
◆純資産:	配当の支払い278百万円等により減少し、四半期純利益504百万円等により増加しました
12,097(+222)	

(注) 「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、2022年3月期第3四半期に係る各数値については、当該会計基準等を適用した後の数値となっております。また、収益認識会計基準等の適用により、利益剰余金の期首残高が22百万円減少しております。

(単位:百万円)



3~4Q売上高(左軸)	19,888	21,143	20,758	22,926	23,228
1~2Q売上高(左軸)	14,479	16,251	16,924	16,232	15,771
売上高	34,367	37,394	37,682	39,159	39,000
經常利益(右軸)	1,167	1,552	1,765	1,791	1,800
親会社株主に帰属する 当期純利益(右軸)	733	941	1,127	1,164	1,170

(注) 「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、2022年3月期の見通しは当該会計基準等を適用した後の数値となっております。

	2018年3月期	2019年3月期	2020年3月期	2021年3月期	2023年3月期 目標
ROE (自己資本利益率)	8.1%	9.8%	10.9%	10.3%	10.0%

本資料に関するお問い合わせ先



経営企画部

TEL : 06-6539-4816

E-Mail : ir-info@eiwa-net.co.jp

URL : <https://www.eiwa-net.co.jp>

(注)この決算説明資料に記載されている売上高及び利益等の計画金額は、いずれも当社グループ会社の事業に関連する業界の動向についての見通しを含む国内及び諸外国の経済状況、並びに各種通貨間の為替レートの変動その他の業績に影響を与える要因についての現時点での入手可能な情報をもとにした見通しを前提としています。これらは、市況、競合状況、新規取扱商品の導入及びその成否等、多くの不確実な要因の影響を受けるため、実際の売上高及び利益等は、この資料に記載されている計画とは大きく異なる場合があります。本情報及び資料の利用は、利用者の判断によって行っていただきますようお願いいたします。本資料利用の結果生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負いません。